



【感染症だより】

～風疹について～

数年ぶりに成人で風疹が流行しています。主に、20歳から50歳代の男性に流行しています。最近では2012-2013年に流行し問題になりましたが、今年再燃しています。MRワクチンの2回定期接種が導入されてから数が減っていましたが、導入以前の風疹ワクチンを受けていない世代に流行しています。風疹の病原体は、風疹ウイルス（rubella virus）です。飛沫感染や接触感染によって感染します。2-3週間の潜伏期の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹がみられます。発熱と発疹は同時に出来ますが、咳、鼻水、目の充血などもみられます。人によっては発熱がみられず、気付かないうちに罹ってしまうこともあります。稀に、関節炎や血小板減少性紫斑病、急性脳炎を起こすこともあります。治療は対症療法で、自然治癒します。一度罹れば、大抵一生かかることはありません。

特に問題となるのは、妊娠初期に罹ってしまうことで、先天性風疹症候群を発症することです。先天性風疹症候群のほとんどは、妊娠12週までに初めて罹った妊婦さんの胎児に起こる病気です。主な症状は、白内障、先天性心疾患、難聴で、このほかに先天性緑内障、色素性網膜症、紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅滞、髄膜脳炎などを起こします。

風疹抗体価が低く、風疹に対する免疫がない方は風疹ワクチンを接種することで予防が可能です。麻疹と混合されているMRワクチンでも可能です。

～百日咳について～

このところ、百日咳も散発しています。通常、三種混合ワクチンや四種混合ワクチンを接種していれば抵抗力がありますが、この抵抗力は3-5年で落ちてきます。5歳児、10歳児で追加接種を行うことで、ある程度の抵抗力を維持することが出来ます。百日咳は乳児だと命にかかわることもあります。ひどい咳が長引くときは検査を受けましょう。

表：8月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

| | 感染症 | 患者数 |
|---|-----------|-----|
| 1 | 胃腸炎 | 90 |
| 2 | RSウイルス | 38 |
| 3 | 溶連菌 | 33 |
| 4 | ヘルパンギーナ | 11 |
| 5 | 手足口病 | 9 |
| 6 | 咽頭アデノウイルス | 8 |
| 7 | 水痘 | 3 |
| 8 | 百日咳 | 2 |

文責：

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、空き状況をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様にしみずクリニックの予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

清水マリ子

